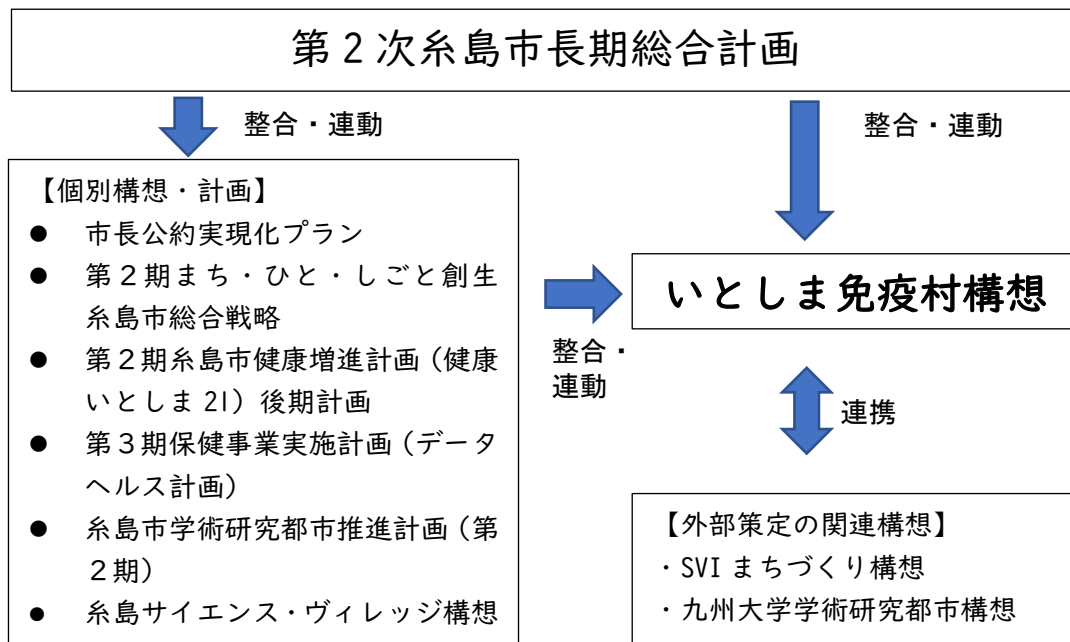




### 3 位置付け



### 4 目指すべきゴール

市民の免疫力を高め、いきいき元気に暮らせるまちづくり

### 5 基本目標

- (1) 市民、九州大学等の研究者・学生、企業、行政等の連携・協働・交流によるコミュニティの創出
- (2) 免疫を通じた市民の健康づくり意識の醸成と生活習慣の改善
- (3) 共同研究や実証事業等が盛んに実施される環境づくり
- (4) 系島サイエンス・ヴィレッジ（SVI）<sup>※2</sup>への関連企業等の立地

### 6 対象地域

系島市全域及び九州大学

※2 系島サイエンス・ヴィレッジ（Science Village in Itoshima：SVI）

九州大学西側隣接部において九州大学の持つ知的資源を実用化・事業化につなげる機能を持ち、市民、市内事業者、国内外の企業・研究所と大学関係者（学生・教職員）が交流できる場。民間主導のもと、周辺環境に配慮しながら系島サイエンス・ヴィレッジ構想の実現に取り組んでいる。

## 7 背景・課題

### (1) 市民の疾病予防の必要性

病気や介護が必要な期間が長くなると、本人や家族の経済的・精神的・時間的な負担の増加や生活の質の低下を招くおそれがある。

また、医療費や介護費など社会保障費の増加、消費の低下や労働者の減少による経済活動の停滞、地域活動における担い手不足、個人の収入減や市の税収減など、社会全体としても影響が大きい。

そのため、市民全体の病気の予防や健康づくりが極めて重要である。特にコロナ禍を経て注目される免疫力を高めることは、感染症対策に加え、生活習慣病の予防にも役立つと考えられており、免疫のバランスを整えることが市民の健康につながる。

### (2) 市民の健康づくり意識を向上させる効果的な働きかけの必要性

核家族化や共働き世帯の増加で市民のライフスタイルが多様化し、生活習慣病が増加している。特に40～64歳の働く世代は、病気の予防や健やかな生活習慣が大切だと理解していても、日々忙しく、どうしても健康への関心が薄れがちである。

そのため、病気の予防には市民の健康づくり意識の向上と行動の変化が必要であり、市は九州大学等や企業等とも連携しながら、働く世代への健康支援をさらに充実・強化する必要がある。

### (3) 糸島サイエンス・ヴィレッジへの関連企業等の立地及び拠点形成

九州大学の知的資源を実用化・事業化につなげ、市民や企業等が交流する「糸島サイエンス・ヴィレッジ(SVI)」を民間主導で創る構想実現のため、現在、九州大学西側地区において、実証事業や企業誘致、土地利用計画の具体化などに取り組んでいる。

この構想の中には、モデルケースとして「リビングラボ<sup>※3</sup>」を設置し、「ヘルスケア(免疫)ユニット」の形成が含まれており、将来的に免疫関連の企業等が立地し、九州大学との共同研究、実証事業が盛んに実施される「免疫の拠点」の形成が求められる。

---

※3 リビングラボ

日々の生活(リビング)を研究開発の場(ラボ)に見立て、産学官民の多様な主体が協働してデータを分析したり、アイデアを創出したりして、新たなサービスや商品、価値などを創出すること

## 8 方針・方向性

### (1) コミュニティの形成と市民協働の好循環化

免疫に関心を持つ市民、九州大学等の研究者・学生、企業、行政等が主体的に連携・協働し、それぞれの知識、技術、情報を生かした交流、研究、実証事業等を行うコミュニティを形成し、拡大していく。

市民の協働によって得られる研究成果等の実益を市民に還元することで、「いとしま免疫村」への市民協働の好循環を実現する。

### (2) 市民の保健医療情報（ビッグデータ<sup>※4</sup>等）の活用

信頼あるコミュニティの形成を前提に、個人から同意を得た保健医療情報を収集し、対象地域をフィールドとした共同研究や実証事業等に活用する。

将来的には、実証事業等であつなかりが生まれた企業や研究所をSVIに誘致し、いとしま免疫村の拠点化を目指す。

### (3) 免疫への意識向上による生活習慣の改善・健康増進

免疫力を高めようとする市民の意識向上や行動の変化を促すことで、生活習慣を改善し、生活習慣病の予防や早期発見、重症化予防につなげる。結果として、働く世代を含む市民全体の健康増進を図る。

### (4) 地域資源といとしま免疫村で生まれた価値との融合

糸島市が持つ豊かな地域資源と、九州大学の持つ知的資源や若い力、いとしま免疫村で生まれた新たな発想、価値、技術、サービス、人との関わり等を掛け合わせて、相乗効果を生み出す。

---

※4 ビッグデータ

健康保険、健診、位置、購買などの多種多量の情報（データ）のこと。情報通信技術の進展に伴い、これらを生成・収集・蓄積等が可能となり、新たなサービスの提供や業務の効率化、新産業の創出等につなげることができる。

## 9 課題解決へ向けた主な施策

### (1) 研究、実証事業等を可能にするコミュニティの創出

自身の健康維持に興味を持つ市民をはじめ、九州大学等の研究者・学生、企業、行政等が集う場を設け、参加者が相互に提案、情報共有、意見交換ができるコミュニティを形成する。

#### 【主な取組】

- 九州大学等の研究者や学生が持つ知的資源を活用し、産学官民が集うワークショップやサイエンスカフェ（研究者等が市民と科学について語り合う場）等の開催
- 市民参加型の研究フィールドの提供
- 市民の健康課題の解決につながる研究・実証事業等の実施
- 産学官民の連携・協働による研究成果等の市民への還元

#### 【期待できる成果】

- 基本目標の達成に向けた新たな価値（発想、価値、技術、関係等）の創造
- 産学官民の信頼関係に基づく市民協働の好循環の実現
- 市民の健康づくり意識の醸成につながる共同研究や実証事業等の円滑な実施
- 免疫やヘルスケア部門に関心を持つ企業や研究所の市内での活動活性化

### (2) ライフスタイルの多様化に対応した健康づくりの推進

九州大学等の研究者・学生、企業等の専門的な知識やリソース（技術・人材・モノ・サービス・情報など）を活用し、科学的根拠に基づいた実践的な健康施策を推進する。

また、研究・実証事業等への市民の協働を促進し、働く世代を含む市民全体の健康づくり意識を高める。

#### 【主な取組】

- 免疫と健康の関係を解明する介入研究<sup>※5</sup>と実証（食・運動・睡眠等）
- 共同研究や実証事業への市民の協働体制の構築
- 九州大学が進めるビッグデータを活用したプロジェクトへの参画

#### 【期待できる成果】

- 市民の健康づくり意識向上と行動
- 免疫をキーワードとした疾病予防
- 健康づくり活動の成果や予後予測の見える化
- 健康づくり施策に関する科学的根拠の獲得
- 新たな研究者、学生、企業等の参加
- 市民のウェルビーイング<sup>※6</sup>の実現
- 将来的な市民の健康寿命の延伸

---

※5 介入研究

病の危険因子や予防因子に対して、研究者が積極的に介入してその効果を検証する研究

※6 ウェルビーイング

個人や社会の良い状態。心身の健康のみならず、社会的、経済的、環境的に良好な状況

### (3) 「いとしま免疫村」関連企業の立地の促進

市民の保健医療情報（属性、健診情報、生活習慣情報など）を活用した研究・実証事業等を促進し、九州大学等の研究者・学生、企業等の市内での活動の活性化を図る。

また、免疫に関連する企業等の協力を得て、市民が気軽に訪れ、免疫をはじめとする自身の健康増進情報、新たなサービス、交流の機会などを得ることができるときの拠点の設置を促進する。

#### 【主な取組】

- 九州大学等との共同研究や企業等との実証事業の促進
- 「いとしま免疫村」に集う関係者のマッチングや調整
- 企業誘致に必要な環境整備や関係者間の調整

#### 【期待できる成果】

- ヘルスケア関連企業等の市内進出メリットの創出
- 系島サイエンス・ヴィレッジへの関連企業等や拠点施設の立地
- 九州大学等の研究者・学生、企業等による新規起業

## 10 推進体制

会議名	市内 全体会議	市内 調整会議	いとしま免疫村検討会	
関係者	<u>健康福祉部</u> ・健康づくり課  <u>経済振興部</u> ・学研都市づくり課	<u>健康福祉部</u> ・健康づくり課  <u>経済振興部</u> ・学研都市づくり課	市内  外部 【参考】	<u>健康福祉部</u> ・健康づくり課  <u>経済振興部</u> ・学研都市づくり課  ・九州大学(研究者等) ・各関係団体
目的	・取組の方向性決定 ・役割等の確認 ・進捗報告	・担当者協議 ・進捗確認	・産学官連携による協議 ・取組の企画・運営・検証	

※取組内容に応じて、市内関係部署が関係者として加わる可能性あり。

## 11 構想の見直し

原則として構想の見直しは行わない。ただし、市内調整会議及びいとしま免疫村検討会において取組の進捗を確認し、市内全体会議に報告するものとする。

そのうえで、必要に応じて、次項のロードマップの見直しは可能とする。

## 12 ロードマップ

取組/年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	実施主体		
							糸島市	九州大学等	企業等
進捗管理	いとしま免疫村 検討会	小規模介入研究※7の 成果検証・とりまとめ	大規模介入研究※7の 成果検証・事業化検討	事業化	●	●	●		
	コミュニティの 創出 (ワークショップ等)	市民との意見 交換 市民への 成果 報告	市民との意見 交換 市民への 成果 報告	市民との意見 交換 市民への 成果 報告	市民との意見 交換 市民への 成果 報告	市民との意見 交換 市民への 成果 報告	●	●	●
健康づく りの推進	九州大学等 ・企業等との 研究・実証事業等	コホート研究 ※8				大規模介入研究、その他個別研究 協力者1,000人以上	●	●	●
	市民への 還元・啓発	研究 ・事業の 仕組み づくり	小規模介入研究 協力者50人～100人程度	保健医療情報の提供などで、研究へ協力した市民への研究成果の還元 研究成果に基づく市民全体への健康づくりの啓発	成果共有 (広報等)	成果共有 (広報等)	●	●	●
企業誘致	関連企業の立地促進	研究への企業等の関わり	研究への企業等の関わり	関連企業等への立地案内・関係者調整・支援等	●	●	●	●	

※7 小規模介入研究、大規模介入研究：個人から同意を得て収集する保健医療情報を活用し、研究者による介入の効果と比較検証する研究。小規模研究でノウハウを蓄積し、より多くの協力者を得て大規模研究につなげる。

※8 コホート研究：一定の条件を持つ「集団」に属する人たちの健康状態を長期間に渡って追跡し、病気の発生や健康状態の変化などを調べる研究